



2023年度（1学期末号）

発行日：2023年7月18日
発行者：香川県立高松南高等学校
人権・同和教育部



◎「自分の中の思い込みで無意識に他者を傷つけていませんか」（人権・同和教育主任 山岡良子）

先日、職務研修で受けた講話の中に「アンコンシャス・バイアス」と「マイクロアグレッション」についての話がありました。身につまされるところもあったので、ご紹介したいと思います。

「アンコンシャス・バイアス」とは、「無意識の偏見・思い込み」のことで、例えば「DVと聞くと、男性が女性に暴力をはたらいていると想像する」というようなものです。しかし、男性から女性だけではなく、女性から男性の場合もあります。こういう思い込みは日常にあふれていて、誰にでもあるものです。思い込みがあることそのものが悪いのではなく、気づかないうちに「決めつけ」たり、「押しつけ」たりしてしまうことが、時として何かに影響を及ぼすことがあり、注意が必要です。

「マイクロアグレッション」は、「小さな攻撃、日常の攻撃」と言い換えることができます。例を挙げると、「障がい者なのに、がんばっているすごいね」という言葉が該当します。発言した側は何げなく発言しており、悪意はないのですが、言われた側にとっては、侮辱されている、下に見られている、否定されている、疎外感を感じるなど、精神的なダメージを受ける言葉なのです。そして、この被害を日常的に、短いスパンで連続的に受けることで、やる気や気力を奪われるだけでなく、被害者の人生の様々な場面で悪影響をもたらすのです。講話をしてくださった方は「これは明らかな差別です」とおっしゃっていました。

皆さんの身の回りでも、思い当たることはありませんか。実は私には心当たりがあります。我が息子は桃やメロンなどのフルーツが苦手なのですが、「こんなおいしいものなのに、食べないのは損している」「食べればおいしいと思うはずだ」と周囲の大人たちが食べさせようとします。けれども、もしかしたら息子は「なんで自分のことをわかってくれないんだ」と傷ついているかもしれない…と反省させられた次第です。差別とまでは言えないでしょうが、多数派の感覚で決めつけて少数派の気持ちを無視しているという意味では、同じことだと思います。

では、「マイクロアグレッション」を減らすにはどうすればよいのでしょうか。講話では、次の3点を挙げられていました。

- ① 他者に問題意識を向けず、無意識の偏見を持っているかもしれない自分、無意識に他者を傷つけていた（かもしれない）自分に問題意識を向ける。
- ② 人を傷つけない言葉に置き換える、知識をアップデートするなどの努力を続ける。
- ③ この社会では、マジョリティ性が多いことによって、自動的に「表現できる自由」が与えられている恩恵に気づく。

（→たとえば、書類の性別記入欄に、悩まずに書くことができる、という自由）

人はみな、それぞれ異なる価値観をもって生きています。「普通ならこうだよ」という決めつけで他者を傷つけないよう、「自分が相手の立場だったら…」「自分の家族が同じことをされたら…」と考え、自分の日常の言動に気をつけていきたいものです。

◎1学期の人権・同和教育ロングホームルームの実践報告

1年生の学習活動（学習課題：さまざまな差別） 主題「人権について～お互いを尊重しあえる集団づくり～」

1年生は「お互いを尊重しあえる仲間づくり～こんなクラスにしたいな」というテーマで仲間づくりについて考えました。入学して3カ月。高校生活に慣れてきたこの時期、クラスの現状を振り返り、今のクラスのいいところ、直した方がよいところを考え、改めてどんなクラスにしたいか話し合いました。話し合った意見からクラスの「スローガン」を決め、そのスローガンを実現するために一人ひとりに何ができるかを考えました。話し合いを通して、居心地のよいクラスにするには、お互いの人権を尊重することが大切であることに気づくことができました。

クラスの「スローガン」と「自分たちにできること」は模造紙にまとめ、教室に掲示しています。文化祭の「人権展」でも展示しますので、ぜひご覧ください。



2年生の学習活動（学習課題：同和問題） 主題「同和問題とは～迷信と差別から学ぶ～」

2年生は部落差別の発端はなんだろう？から学び、ケガレ意識についても深く知ることができました。また「キヨメ」と呼ばれる人たちが社会のなかで重要な役割を果たしていたことも理解することができました。途中で映像を視聴して、京都の東山文化を支えた人たちの考えや苦悩を学びました。

生徒は普段何気なく生活の中にあるカレンダーの六曜や血液型占いについて立ち止まって考えました。なぜ人は根拠のないことも信じてしまうのかを考える良い機会にもなりました。

部落差別に対する学習は次年度も続きます。正しい知識を得て正しく理解し、客観的な視点を持つことができる人間になってほしいと思います。



3年生の学習活動(学習課題：同和問題)

主題「同和問題の現状と課題～進学・就職差別をなくすために～」

3年生は、これから就職試験や進学試験を迎えます。そこには、“面接”があります。進学する者もいずれは就職試験があります。社会人の第一歩を踏み出そうとする3年生に向けて、差別選考につながるおそれのある「12項目」を軸に、就職差別という人権課題について授業を行いました。今年度は、授業後のプリントを持ち帰り、保護者の方に見ていただきました。ご家庭でもお話されましたでしょうか。

授業の流れは、人権委員を中心に複数名で模擬面接の劇を行い、質問項目として適切かどうか、そして不合理な質問の理由を各々考えました。授業の中で「これは答えてしまう」、「どうして聞いてはダメなのかわからない」といった意見もありましたが、香川県教育委員会から配布された『公正な採用選考の実現に向けて』という冊子を確認し、不合理な質問には、「学校の指導でお答えできません」と答えることを学びました。さらに、この人権課題は履歴書でも起こります。そのため現在は、「全国高等学校統一用紙」が作られ、本人に責任のない項目は省かれていることを確認しました。

社会に出ると、自分自身で判断しなければならないことが多くあります。この授業の記憶をこれからに活かしてほしいものです。そして、一人ひとりの行動がこの人権課題の解決へとつながることを願っています。

※就職差別のおそれがある12項目の質問

- | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------|---------------------|-----------|--------|--------------|
| 1. 本籍（戸籍謄本・抄本、住民票等の要求） | 2. 家族の職業・続柄、身元調査 | | | | |
| 3. 家族の地位・学歴・収入 | 4. 家族の資産 | 5. 住居状況（部屋数・間取り・道順） | | | |
| 6. 宗教 | 7. 支持政党 | 8. 生活信条 | 9. 尊敬する人物 | 10. 思想 | 11. 生まれ育った場所 |
| 12. 生活環境に関する作文（生いたち、私の家族、父・母を語る等） | | | | | |

特集



◎「メンタライゼーションと人権感覚」 看護科教員 上田ひとみ

メンタライゼーション Mentalization とは、臨床心理学者で児童・成人の精神分析家でもあるピーター・フォナギー Peter Fonagy, 1991 が提唱した概念です。フォナギーの言うメンタライゼーションは、一言で言えば、「holding mind in mind」と表現できます。日本語に訳すと、「この中の中にこころを保持すること」つまり「こころでこころを思うこと」ということです。

こうしたこころの働きは、どのようにしてその発達過程をたどるのでしょうか？赤ん坊が泣くと、母親は、赤ん坊は何が不快なのかと考えます。「おなかがすいたのかな？」「おむつが濡れて気持ち悪いのかな？」と母親は赤ん坊のこころの世界の事情を想像することができます。これが母親のメンタライゼーション能力です。母親は自分のメンタライゼーション能力を使うことで、言葉にならない乳児の感情体験を言葉に翻訳して乳児へと映し返すのです。このように、相手のこころを思おうとする努力を重ねる中で、人は「こころでこころを思う」ことができるようになっていきます。

メンタライゼーションとは、自分を含めた人の行為という外形的な事象の心理状態に思いを馳せ、こころという視覚化できない内的な体験と関連づけて考え、理解しようとするをいいます。この内的な観点を持つうえで、重要となるのが not-knowing stance(無知の姿勢)であると言われています。どんなに近い関係の人であっても他者のこころは容易には分からないものです。分からないから分かろうとする努力が、メンタライゼーションの基本姿勢です。

無知の姿勢で、逆境や困難の中にある人や人権侵害を受けている人の事情を感じとろうとする努力を通してこそ、人は、未熟さ、偏見、差別意識といった自分自身のこころの事情が見えてきます。こうして、人は、他者と自分のこころの関係をメンタライズできるようになります。

人権感覚とは何か？教育に携わる者は、日々、こうした自問の中にいます。他者と自分、生徒と教師という関係をメンタライズしようと努力するこころの過程を通してこそ、本来の人権感覚の涵養があると言えるでしょう。そして、他者や生徒のことを分かったつもりにならず、「無知の姿勢」を貫くことが正しいメンタライゼーションの前提だと考えます。

